

◇追憶青春時代！アマチュア無線局開局のころ

大槻伸次

アマチュア無線とは、金銭目的や事業ではなく個人が行う趣味として楽しまれている無線通信のことで、無線技術を発展・追及するという意味が込められているそうです。

通信方式は、AM 電話 (A3)、SSB 電話 (A3j)、モールス (電信・A1) 等。使用できる周波数帯は 1.8Mhz, 3.5Mhz, 7Mhz, 14Mhz, 21Mhz, 28Mhz, 50Mhz, 144Mhz, 400Mhz, 1,300Mhz 帯などある。14Mhz 帯は海外などの遠距離通信向きで 1 級と 2 級資格者のみ運用できる。空中線電力の当時の資格区分は第 1 級アマチュア無線従事者 500W, 第 2 級アマチュア無線従事者 100W, 電信級 10W、電話級 10W だった。その後、法律が改正され第 1 級から 4 級までの 4 段階の資格区分になった。

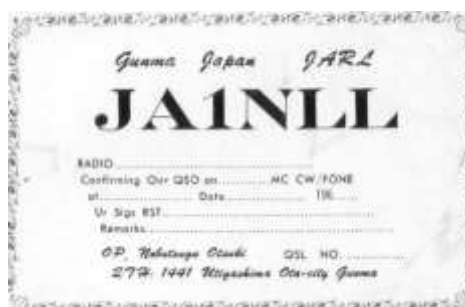
アマチュア無線局の開局は、郵政省の実施する無線従事者国家試験に合格し (後に電話級と電信級は地方で講習会が実施されるようになった)、アマチュア無線従事者の資格を取得することが必要だった。そして、自からが取得したアマチュア無線従事者のクラスに適合した設備を設置して、その計画書を電波管理局に申請する。電波管理局では申請された書類通りに、無線設備が整っているか等の落成検査が実施される。

計画書と設備が適合していればコールサインが与えられ免許が下りる。

■写真上から①・S39 年 2 級取得後の無線局 (JA1NLL) のシャック (生家)。写真中央中下 2 台が会社先輩である山本信夫さん製作の無線送信機。最上部は VFO、左側緑は変調器 (自作)。左は自作親受信機で、上は市販のクリスタルコンバーター (短波チューナー) を山本信夫さんに改造して戴いた。■写真上から②・S38 年 9 月電話級アマ無線局を開局した頃のマイシャック。山本さんから借りた測定器 (左最上部) も見える。

■写真上から③・樫の木の大木を利用し立てられた 3.5MHZ 帯無線用アンテナ。

■写真上から④・私の (当時) 無線局「JA1NLL」の QSL カード。



私がアマチュア無線をやってみようと思ったのは職場の同僚（K君）の強い勧めがあったからである。私はそれまでオーディオに熱中していたが、彼と話す機会があって初めてアマチュア無線というものを知りすごく興味が沸いた。

K君は中学生の頃からハムをやっているらしく、既に資格を取得しコールサインが「JA1H●T」という無線局を開局していた。彼によると、この太田市近辺のアマ無線家が短波帯の3.5MHzを使い午後8時半よりオンエアして雑談を楽しんでいるというのを耳にした。

そこで、帰宅後、この時間帯に短波ラジオのスイッチを入れて選局すると数人の人達が日常のたわいのない話題を楽しそうにやっていて、自分も直ぐに仲間に入りたい気持ちにとり付かれてしまった。

■写真右上①・JA1EYR 山本信夫さんとの交信証。桃が丘社宅（後に高林へ）にいたころ度々遊びに行った。山本さんには送信機2台製作していただき現存。ある休日am7時前に、桃ヶ丘社宅から我が家（4km）に予告なくやって来て（自転車）、まだ寝ているのかとたたき起こされた。設備の点検に来てくれたのだった。

■写真上から②・山口県のJA4BJEさんとの交信証。3.5MHz帯の電波で初交信。私がアマチュア無線を始めて初の遠距離通信に成功した交信相手。雑音にかき消されそうな微弱な電波を捉え、夢中で呼びかけたら返事があり交信に成功した。

■写真右上から③・愛媛県のJA5AXRさんとの交信証。3.5MHz帯の電波の波長の関係（スキップ現象・電波がサインカーブを描きながら飛ぶ）で中国、四国、北海道、東北に電波がよく飛んだ。

■写真右上から④・太田市内のJA1PQとの交信証。女性らしい赤を基調としたQSLカードだった。貴重な女性のアマ無線家。

■写真上から⑤・太田大泉飛行場に駐留した米軍兵士ハムとのミーティング時に交換したQSL CARD。コールサインの〔KA2FF〕は駐留軍が日本地域（JA）に設定したコールサインなので公に交信ができない。そこで、太田アマチュア無線クラブ仲間宅でミーティングを開いた。片言の英会話で楽しいミーティングとなった（通訳付き）。



それからというもの、毎日本屋に通い参考書を探し猛勉強を始めた。その甲斐あって翌年の昭和 38 年 6 月に電話級アマチュア無線技士の試験に合格した。

免許証は、郵政大臣印が押された立派なもので無線従事者免許証と金箔文字で印刷されて、非常に有り難く感じた。ところが、資格をとったのはいいが無線機の調達をどうするかで悩むことになった。というのは、トリオや八重洲などのメーカー製を購入するのが簡単で直ぐに開局することができるが、なんとも金欠で予算が組めないの思案の末、自作することになった。自作は自分の力だけでは困難なので、K 君や太田アマチュア無線クラブの面々、購買課の山本信夫さん達のアドバイスを受けながら無線機の設計と製作に取っ掛り、部品調達のため東京の秋葉原通いが再び始まった。

(秋葉原オタクのはしりだろう。) 四苦八苦の末、ようやく無線機が完成し、開局申請を関東電波管理局に申請する。幸い空中線電力 10W 以下の場合、日本アマチュア無線連盟 (JARL) の認定で設備の検査が省略されることだったので書類審査のみだったので無事開局にこぎつける事が出来た。

昭和 38 年 9 月 2 日、念願のアマチュア無線局免許状が電波管理局より下りた。コールサインは、JA1NLL (ジェイエイワンエヌエルエル)。早速オンエアする CQCQ こちら JA1NLL。 J, JAPAN A, AMERICA 1, NO.1 N, NANCY L, LUKY L, LUKY と呼びかける。雑音の中から、かすかな声で応答がある。こちらは JA4B ●E 中国地方山口県からの応答であり夢中で呼びかけるも声が自然と大きくなる。この時は、交信が成立して QSL カード (交信証) の交換を約束した。今でも QSL カード (写真) を大切に保管している。その後、太田アマチュア無線クラブ (JA1YGL) に加入し、毎月の例会 (受楽寺本堂が例会場・住職の俵は JA1I●V) やフィールドデー (野外交信の日) など楽しい思い出が一杯あった。私が、アマチュア無線を始めるについてアドバイスをしてくれた同僚の K 君 (JA1H●T)、太田アマチュア無線クラブの面々、会社の大先輩である山本信夫さん [JA2FN (名古屋時代・中部) / JA1EYR (関東) サイレントキーとなってしまった] には深く感謝をしている。

翌年、どうせやるなら海外のハムとも交信してみたいという思いから上級試験にチャレンジする事になった。そして昭和 39 年度に実施された上級資格に挑戦し合格した。実施場所は東京の中野高等無線学校で 4 月 1 日電気理論、電子工学 5 月 19 日、電波法令 5 月 20 日と電信試験 (欧文、毎分 50 文字の送受信) の 3 回実施された。私 (JA1NLL) と中学教諭の S 先生 (JA1K●W)、そして学生の M 君 (JA1K●O) は第 2 級アマチュア無線技士、同僚の K 君 (JA1H●T) は第 1 級に挑戦した。

試験当日 (5 月 1 日) は午前 4 時に起き、5 時 32 分発の浅草行きの東武電車に乗る。8 時 30 分中野着。9 時 30 分試験開始。5 月 19 日電波法の試験も同じ。5 月 20 日の電信テストは翌日なので S 先生の姉さん宅に泊めてもらった (千葉県市川市)。

結果は 3 人とも合格。免許証は、無線従事者免許証と金箔文字で印刷されて、郵政大臣印が押された立派なもので非常に有り難く感じた。ところが、資格をとったのはいいが、100 ワット出せる無線機の調達をどうするかで悩むことになった。そんな悩みを山本さんに打ち明けたら、お前の所にある所有パーツを全部俺のところを持って

来いという事になり送信機 2 台を鋭意製作して戴けることになった。しかし全ての装置を作るのは時間を要するので、変調器 (A3 電波に音声を乗せる装置でオーディオアンプと似ている) は私が自作するという事になった。ところが、私自身公私ともに多忙で完成が伸び伸びとなってしまう。ところが、世間では電波形式が A3 方式 (AM 変調) から混信の際のビート音のしない A3j (SSB シングル・サイド・バンド) という電波形式が急速に普及した為手遅れとなり、本格的な運用も間もなくお蔵入りとなってしまうのである。(電信のみであれば使用できるが。) 大切な休日を使って製作して戴いた山本さんには本当に申し訳なかった。現在、私のところに山本さんに製作して戴いた無線機が 2 台大切に保管されている。その後、山本さんが群馬製作所を離れるにあたって山本さんが保有していたメーカー製の SSB 送受信機の処分についてお前さんがもっと熱中しているのであれば譲ってもいいと言われたが、私自身もスランプだったのでそのままになってしまった。

艱難辛苦して開局した無線局 JA1NLL 局は、残念ながら平成 23 年春、家のリフォームにかまけて免許証の書き換えを忘れ失効してしまった。(有効期限までに書き換えを終わっていなければならなかった。) 再免許は可能だが、日にちが経過してしまったので同じコールサインを貰えるかは定かでないし、今更大型アンテナを建てて始めようというエネルギーが無くなってしまったので再免許の申請はしなかった。(14Mhz 帯~21Mhz 帯等の大型アンテナの設置が大変。VHF や UHF 帯等の近距離通信はあまり興味が無かった。) ※山本さんに製作して戴いた送信機 2 台 (100W と 10W) は、筐体の穴あけ加工から出力真空管を覆うシールドケース (アルミ板を円筒に加工し合わせ目と取り付け足をリベット止め)、配線等全て手加工で配線や板金加工の上手さに驚いた。

モールス符号の送受信練習をやり遂げた

昭和 38 年 9 月、電話級アマチュア無線局を開局し、ようやく市内のハム (アマチュア無線家のこと) 仲間に入れさせてもらった。仲間入りし何よりの楽しみだったのは夕食後、電波を通して仲間達とのローカルラグチューだった。ローカルラグチューは、市内の仲間と肩ひじ張らずテーブルを囲みながらお茶を飲み、たわいのないおしゃべりをするというそんな雰囲気のものだった。そんなおしゃべりの合間を縫って、北海道、九州、四国などの遠距離通信も必死でやった。そして、何れは海外のハム仲間と電信 (英会話は無理でも電信であれば共通語なので理解しあえる) で交信したいという夢が膨らんだが、海外との交信は、電話級アマチュア無線技士に許可されている空中線電力 10W ではとても無理なので、空中線電力のパワーアップは必須だった。

ところが、空中線電力をパワーアップするには上級資格である第 1 級アマチュア無線技士 (500W) 或いは第 2 級アマチュア無線技士 (100W) の資格が取得が絶対条件であった。ところが第 1 級アマチュア無線技士は大卒程度の学力が要求されるので、とりあえず下位の資格である第 2 級アマチュア無線技士 (高卒程度) を目指すことにした。電話級に続きふたたび国家試験に挑戦するため参考書をかき集め猛勉強が始まった。しかし学科試験の受験勉強は自分 1 人でも出来るが、モールス符号の練習を 1 人でやるのは至極困難だった。(当時は、テープレコーダーなどという録音機がなかつ

た)ましてや、英文、和文、数字のモールス符号を高速で送信、受信する実技試験(2級の場合送信、受信の能力は毎分50字を要求される)を突破しないと合格できないのである。幸いなことに同じ職場のK君も上級資格である第一級アマチュア無線技士を目指していたので、お互いに練習の場が必要だったので早速話がまとまった。それからというもの、工場の昼休み時間を利用して練習が始まった。そして丸々2年間、雨の日も風の日も職場の同僚も驚くほど毎日欠かさずトントンの練習をやった。そして2年後、ハム仲間であるS先生の親戚に泊めていただくという好意に恵まれ、K君は第1級アマチュア無線技士を、私は第2級アマチュア無線技士に挑戦し、共にものにする事ができたのである。ところが、そんな喜びも束の間、K君が一身上の都合で群馬製作所を退社することになってしまったのである。長かった職場でのK君とのお付き合いも終わりになってしまった。思えば、一昨年6月より始めたモールス符号の送受信の練習もK君の都合を除けば一日たりとも休んだ事なく続けた。ほんとうによくやつたなどお互い驚いたものである。上級資格への挑戦は自分の人生に於いて忘れることのできない一ページであった。「良き友は千金に値する」とはまさにこのことであろう。

太田アマチュア無線クラブ設立に参加

私はK君の薦めでアマチュア無線に興味を湧き、その日早速短波放送を受信すると、夕食後の午後8時ころからおしゃべりが始まっていた。おしゃべりの内容はたわいのないものであったが、自分も資格を取って仲間に加わりたいたいとの思いでいてもたってもいられなかった。そこで早速参考書を手に入れ、国家試験に挑戦するべく猛勉強が始まった。

また、それと同じころ太田のアマチュア無線家が集まって「太田アマチュア無線クラブ」を作ろうと話が持ち上がった。私は未だハムの資格はなかったが、K君の紹介で仲間に入れてもらった。そして太田アマチュア無線クラブのクラブ局の免許が下



りコールサイン「JA1YGL」も来た。その活動の中で、仲間の無線アンテナの建設にも参加しアマチュア無線電波を発射するまでの諸々の勉強もさせてもらった。

そして私自身猛勉強の甲斐があり昭和38年6月11日「電話級アマチュア無線技士」の免許証が届いた。その後、K君やハム仲間たちの応援を得てアマチュア無線局の開局に漕ぎつけることができ、名実ともにハムの仲間入りを果すことができた。ところが、自作した無線機の調子が上がらず、会社の山本信夫(JA1EYR)さんに助け舟をお願いしたら快く受けてくれ、生家にも出張してくれ大変お世話になった。

また、重職にありながら無線送信機を2台も製作してくれた。私にとって「太田アマチュア無線クラブ」の活動や「山本さん」との交流は忘れられない青春の思い出である。太田アマチュア無線クラブの例会は月一度のペースで開かれた。

例会は、会員同士の親睦（女性ハムもいた）とハムについての情報交換やコンテストなどの年間行事へ参加、他クラブ局との交流など討議した。例会会場は受楽寺（JA1I●V）又はS先生（JA1K●W）宅だった。ある時、近くの小泉飛行場に駐留する進駐軍ハム「KA2FF」と片言のイングリッシュを駆使してミーティングが持たれた（通訳付き）。「KA2FF」は（KAは米国が日本地域（JA）に設定したコールサインの為、日本国内ハムとは交信は違法となり出来ない／彼の米国でのコールサインはK6VFF）。

彼の名はLAWRENCE.G.HAMM21歳、カリフォルニアPOMONA市出身）2021年現在、ネットで調べると彼のコールサインK6VFFが出てくるからハムを続けているようだ。■写真はS先生宅のアンテナ建設（柱はパンザーマスト）風景。※パンザーマストとは緩いテーパの突いた円柱（鉄板を丸めたものに亜鉛メッキがされている）を積み重ねる。

太田アマチュア無線クラブフィールドデー参加

昭和41年（1966年）8月6日～7日晴

フィールドデーとはアマチュア無線局の野外コンテストのこと。コンテスト期間中に如何に多くのアマチュア局と交信したかを競う。

上位優勝者はJARL（日本アマチュア無線連盟）よりアワード（表彰）が受けられる。

我がJA1YGL（太田アマチュア無線クラブ局）局は浅間隠山に移動し移動局開局する。

8月6日6時JA1I●V宅（受楽寺）へ集合。車3台で行くため浅間隠山から浅間山に変更する。6時30分JA1I●V宅（受楽寺）出発太田駅前にて記念撮影と8ミリ映画撮影。7時、太田駅前出発前橋を経て国道17から18号へ碓氷峠を超えて一路軽井沢へ向かう。移動中、タイヤがパンクするというハプニングがありパンク修理。ついでに食料調達。ここから直ちに浅間登山口に向かう峰の茶屋12時到着。昼食をとってから今夜の運用地に向かう。



■写真上・出発前、受楽寺に集合 ■写真下・アンテナを感度の良い所に移動。

小浅間を越え樹林帯を越えた禿山（火山地震観測所そば）にテント設営、日陰がないのですごく暑い。夕食の仕度のため、薪など準備のため枯れ木のあるところまで下山して枯れ枝を集める。到着の遅い組はテントやアンテナの設営。夕食は、BBQ。夜は、テントの中でがやがやと人生論を語り合う。

我々は、夜中の0時より各人交代でコンテスト開始する。am2時37分より3時37分まで37局と交信する。使用機は、トリオTR1000なかなかFB（性能の良い）な機種。am7時ごろには皆起床して皆でQSOに精出す。

朝飯は夕べの残り飯。9時にテントを畳み10時に下山する。夕べ浅間の頂上を極め

た人達が下山してきて大賑わい。峰の茶屋到着 11 時。12 時 45 分鬼押し出し。そこから浅間牧場に立ち寄り、新鮮な牛乳を飲んで昨夜の徹夜の疲れを癒やす。浅間牧場から北軽井沢、中之条を経て 19 時太田無事到着。

今夏、僧侶見習い、大学生、高校生、先生、会社員、先輩、後輩など様々な経歴の人達がアマチュア無線という趣味で結ばれて、こんなに楽しい夏休みを送れたなんて一生忘れられない。アマチュア無線こそまさに「キング・オブ・ホビー」だろうと確信した。(過去に、財を成した人たちの遊びで「キング・オブ・ホビー」とも言われたと聞いたことがある。) 今後もこんな機会を逃さず、活動に参加したい。

暫らくして日本アマチュア無線連盟より JA1YGL はフィールドデーコンテストに優秀な成績を収めたのでアワード (賞状) が交付された。

[2021/11/21 記 (過去にあっちこっち書き留めたものを再編集した)]

最後に

私がアマチュア無線に入門した昭和 38 年~40 年代初期の頃は、各家庭に固定電話さえあまり普及していなかった。(生家では農協の有線放送電話に加入していた。) その時代、夕食後の 8 時半から、アマチュア無線電話で (主に 3.5Mhz 帯)、太田市近辺のハム仲間達と、テーブルを囲んでの雰囲気で続けられたローカルラグチュー (おしゃべり) は、今でも忘れられない青春時代の思い出である。



(アマチュア無線の場合、固定電話やスマホの様に同時に会話できないので交代で、誰々さんどうぞと代わるがわるおしゃべりを交代する。) そして、その合間を縫って北海道、東北、中国、四国、九州地方の見知らぬ人たちとの遠距離通信を必死にやった。ときには電波状態がすごく悪い中 (フェージング現象という。太陽黒点多発にも影響受ける。)、微かな呼びかけに必死になって応えると、了解しましたとの微かな返事が返ってくる。最後に QSL カード (交信証) の交換の約束して通信を終わる。難儀しながらも成功したときの喜びは、何物にも代えがたいものだった。また、アマチュア局開局に当たり、山本さんやハム仲間たちが親身になって応援してくれたおかげで無事開局に漕ぎつける事が出来たのです。感謝感謝だった。

あの頃は青春の真ただ中で、日本は東海道新幹線が開通し、東京は大改造され、東京オリンピックが開催された。我々は、労働組合の斡旋で普通自動車免許 (木崎自動車練習所) を取得し、日本がどんどん発展していくのが肌で感じられ、希望溢れるよき時代だったのです。 ※最近 (2021 年 10 月 14 日木曜日夕の NHK テレビ) コロナ流行の影響で家に閉じこもりがちの生活となっているためか、再びアマチュア無線に注目が集まっていると伝えていた。私自身、現在も TRIO 社製の TS-520V SSB トランシーバー (だいぶ古い) を保有しているので再開に興味が無かったわけではないが、現在では歳のせい (80 才) 音声聞き取りにくくなったのとアンテナ建設の大変さで諦めの境地です。